

能代市バスケの街づくり推進計画の点検及び推進に関する報告書（写）

能代市バスケの街づくり推進委員会は、「能代市バスケの街づくり推進計画」の初年度及び2年度目の点検及び推進を市と協働で行ってきました。

その結果を下記のとおり取りまとめましたので、別紙資料を添えて報告します。

記

1 街づくりの指標について

街づくりの指標のうち、鍵となるものを次のとおり設定し、主にこれらを目安としながら、活動の状況や実感などを踏まえ、計画を点検した。

（ゴール1：本物のバスケに触れられること）能代カップの観客数

（ゴール2：バスケで誰でも集えること）バスケミュージアムの来館者数

（ゴール3：バスケで地域が潤えること）バスケの街ロゴマーク使用の登録者数

これらを踏まえ、次年度以降、①能代カップの活性化、②バスケミュージアムの機能強化、③バスケの街ロゴマークの普及、が取組の課題であることを確認した。

また、指標の目標値については、上記3つを中心として、その推移をみながら、今後の委員会の中で検討していくこととした。

2 バスケの街ロゴマークについて

委員会の主な活動の1つとして、平成24年度にバスケの街ロゴマークの選考に関わり、25年度には試行使用を行いながら管理方法を検討し、ガイドラインの成案に至った。

26年度からの一般使用にあたっては、当面は普及していくことがもっとも大事なので、使用料等の料金は徴収しないこととし、その管理と普及については、引き続き委員会として関わっていくこととした。

3 2年間の総括と今後の方向性について

バスケミュージアムの開設やバスケの街づくり市民チャレンジ事業補助金の創設などをきっかけとして、市民や民間においてもさまざまな取組が新たに生まれ、そうした活動を目にする機会が増えた一方で、競技レベルの向上が感じられない、市民の関心が高まっていないなどの課題も挙げられた。

これらを踏まえ、今後の方向性として、次の点が挙げられた。

(1) ネットワーク形成と情報発信について

人と人がつながる機会が増え、徐々にネットワークが形成されてきており、バスケ関連のイベント等のほか、一般のイベントにおいてバスケの要素を取り入れる機会も増えてきた。

こうしたことで、バスケに関する情報発信も増えてきているが、今後はネットワークを活用しつつ、全国に向けた情報発信について充実していくことが望ましい。

(2) 競技力の向上について

現状の競技レベルを考慮すると、競技力向上のためのさらなる施策のほか、東京オリンピック開催決定をきっかけとした合宿誘致等の施策を講じる必要があると思われる。

また、能代市総合体育館については、競技力向上のためにも、利便性の向上、環境整備の充実及び利用の促進を図っていただきたい。

(3) バスケの街づくりへの協力体制について

効果的で効率的な取組を進めていくためには、市教育委員会や競技関係者の協力体制が不可欠であり、バスケの街づくりへ積極的に関わっていくことが望ましい。

平成26年3月24日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市バスケの街づくり推進委員会
委員長 石井 一生